

書きことばに現れる「ません」と「ないです」

落 合 智 子

1. はじめに

現代日本語の述語否定丁寧形は「ません」が規範的とされてきたが、近年日常会話では「ないです」の方が使用されていること（野田（2004）、小林（2005））が指摘された。以来「ません」から「ないです」へのシフトを促す要因について多く研究が出されたが、多くは日常会話のみを対象としてきた一方、それ以外の場面での使い分けに関しては余り注目されて来なかった。本研究では書きことば、書きことば的話しことば、話しことば的書きことばにおける述語否定丁寧形の使い分けについて調査し、日常会話と共通する「ないです」へのシフト要因が見られるか、今後日常会話以外の場面でも「ないです」へのシフトは起きるか考察した。

2. 先行研究のまとめと問題提起

現代日本語の述語否定丁寧形の使い分けは、田野村（1994）の書きことばでは「ません」が9割近いという調査結果に対し野田（2004）、小林（2005）等が日常会話では「ないです」が6割を超えることを指摘して依頼、「ないです」へのシフト要因を探ることが研究の中心とされてきた。シフト要因として、終助詞・接続助詞が接続する場合「ないです」が上回る（田野村（1994））、「動詞＋ないです」は「動詞＋ません」と比べて少ない（田野村（1994））、否定疑問文「では／のではないか」形では「ないです」が「ません」を越える（田野村（1994）、野田（2004））、前接する動詞が動作性よりも状態性の方が「ないです」が使われやすい（野田（2004））、丁寧度が低い場面では「ないです」、高い場面では「ません」が多く使用される（福島（2004））、モダリティは実行系よりも叙述系の方が「ないです」の割合が高い（尾崎（2004））、引用節外では「ないです」、内では「ません」が多い（小林（2005））、話し手が否定を強く表したい時は「ないです」、聞き手への配慮を表したい時は「ません」が使われやすい（川口（2010））等が明らかになっている。

その中で書きことばを扱っているのは田野村（1994）、野田（2004）、尾崎（2004）だが、野田（2004）はシナリオと小説の会話文、尾崎（2004）は小説の会話文をそれぞれ話しことばとしており、あくまで話しことばが対象と言える。川口（2010）はそうした結果を元に「ないです」が今後より優勢になり「ません」が消失していくのではないかと考察している。

が、日常会話以外での「ないです」の使用状況を見ずにそれを議論するのは早計ではないかと筆者は考える。そこで本稿では日常会話以外での「ないです」へのシフト傾向を調査し、今後「ません」が使われなくなるとい議論が妥当か考察した。

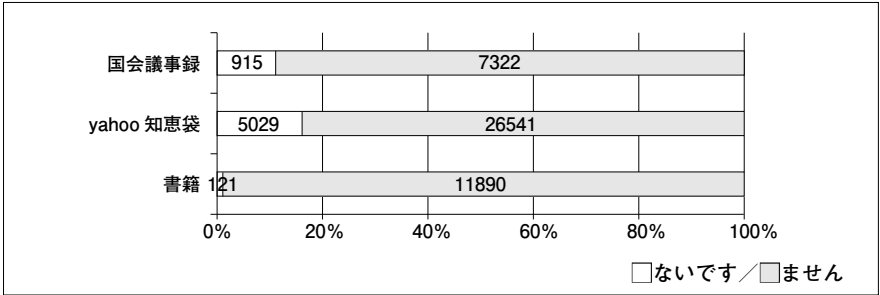
3. 調査方法と調査対象

用例収集には『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を使用した。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』は現代日本語の言語学的な多様性を幅広く把握できる汎用コーパスとすることを目標に国立国語研究所が設計したもので、収録対象の刊行年代は書籍の場合は1986～2005年を中心に最大1976年から2005年までとなっている。調査対象は、小林（2005）の「音声を媒体とする」「双方向のやりとりである」「事前に準備されたやりとりでない」という定義に倣い、書きことばと話しことばの中間的特徴を持つ媒体として国会議事録、Yahoo 知恵袋を選択した。国会答弁は音声を媒介とするが、事前に準備されている点、「自分の意見を完全なもの、相手の意見は重大な欠陥があるものという前提のもと互いの意見をぶつけ合うためのやりとり」（畠（1986））であるという点で日常会話とは性質が異なる「書きことばの話しことば」である。Yahoo 知恵袋は質問者が質問を書き込み回答者が自由に答えるインターネットサイトで、音声を媒介とせず双方向的やり取りではない。しかしチャットやメールは文体的には書きことばよりも話しことばに近い（伊藤雅光（1993）、大田（2001））とされ、「話しことば的書きことば」と言える。それに比較対象として純粋な書きことばである書籍を加えた3つを対象とした。分析は各調査対象から過去形を含む「ないです」・「ません」を抽出、先行研究で指摘された「ないです」へのシフト要因、前後に接続する品詞、否定疑問「では／のではないか」形、前接する動詞の種類、引用節内か外かの4点から、先行研究と同様の傾向が見られるか分析、「ないです」へのシフトは日常会話以外でも進んでいるか考察した。

4. 調査結果

4. 1. 総数

過去形も含めた「ないです」と「ません」の比率は、国会議事録11.1%：88.9%、Yahoo



【図1】「ないです」「ません」の資料別比率

知恵袋15.9%：84.1%、書籍1.90%：98.9%、で全ての調査対象で「ません」が「ないです」を圧倒的に上回った。これは新聞記事を使った田野村（1994）とほぼ同様で、日常会話では「ないです」が6割を超えた（野田（2004）、小林（2005））のとは対照的である。またYahoo知恵袋が最も「ないです」の割合が高く、逆に書籍では「ないです」が極端に少なかった。

4. 2. 用例の分類方法

野田（2004）に倣い、前後に接続する品詞によって用例を分類した。前接品詞は名詞、非存在、イ形容詞、ナ形容詞、ない型形容詞、動詞、動詞て形、その他、後接するものは言い切り、疑問の終助詞「か」、「か」を除く終助詞、接続助詞、「です」「でしょう」²⁾、その他に加え、Yahoo知恵袋でのみ終助詞的なものとして顔文字を採用した。

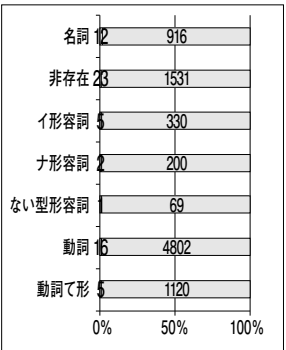
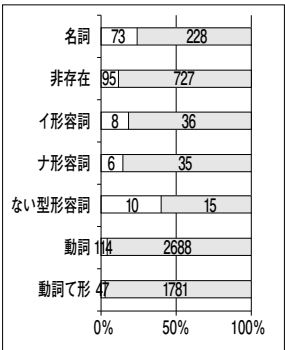
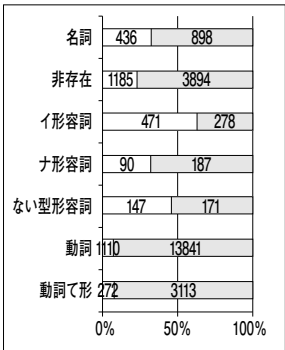
- ・ない型形容詞のうち「ません」形との対応が無いものは除外した。
- ・「ごさいません」はない形との対応がないため除外した。
- ・「ではないか」、「のではないか」は終助詞による分類ができないため、別に分類した。
- ・「動詞て形」には「ている形」と「て形＋補助動詞」を分類した
- ・「ならない」には「ては／ればならない」、「いけない」には「ては／れば／ちゃ／たら／といけない」を分類した。
- ・「顔文字」には等の顔文字の他、（笑）（汗）等各種表現を含む。ただし「!」「・・・」は言い切りに含めた。
- ・その他には名詞接続等基本的に「ません」のみに後接する用例を分類した。

4. 3. 前後の品詞による分類

4. 3. 1. 前に接続する品詞による分類

媒体別の比較では書籍は全ての品詞で「ません」が98%を超えたのに対し、Yahoo知恵袋

□ないです／■ません



【図2】議事録前接品詞別比率 【図3】Yahoo 前接品詞別比率 【図4】書籍前接品詞別比率

はイ形容詞で「ないです」が「ません」を上回った他、全体的に「ないです」が多く、国会議事録もない型形容詞で「ないです」の割合が高かった。品詞別では名詞・非存在・形容詞よりも動詞・動詞て形では「ないです」の割合が圧倒的に少なかった。

4. 3. 2. 後接するものによる分類

3つの調査対象全体で、終助詞、接続助詞が後接する場合には「ないです」の割合が高かった。Yahoo 知恵袋で最も顕著で、終助詞が後接する場合は名詞、非存在、形容詞で「ないです」が「ません」を上回った。

4. 4. ではないですか、のではないですか

田野村(1994)、野田(2004))は否定疑問文「では／のではないですか」形では「ないです」にシフトしやすいとした。本調査では全体では「ないです」が多数を占める内、書籍「では(じゃ)ないですか」のみ「ません」が多かった。そこで詳細を見るために「では(じゃ)ないですか」を意味別に「驚き・発見」、「非難」、「確認」、「ようじゃないか」の3種類に分類した結果「驚き・発見」と「ようじゃないか」では「ません」が圧倒的多数だった。また調査対象別でみるとYahoo 知恵袋、国会議事録と比較して書籍は「ないです」へのシフト進んでいないと言える。

4. 5. 動詞の種類

野田(2004)は状態動詞の方が動作性動詞より「ないです」が使われやすいとした。本稿では、野田が挙げた「わかる」「できる」「可能形」「動詞ている」に比較のため動作性動詞「言う」、「行く」を加え「ないです」と「ません」の割合を比較した。結果、国会議事録では「可能形」、「動詞ている形」、「行く」、Yahoo 知恵袋では「動詞ている形」と「言う」、書籍では「動詞ている形」と「行く」で動詞全体よりも「ないです」の割合が高く、逆に国会議事録では「わかる」、Yahoo 知恵袋では「動詞ている」以外の状態動詞で「ないです」の割合が低く、状態性動詞が必ずしも動作性動詞よりも「ないです」の割合が高くなるという結果にはならなかった。

4. 6. 引用節内か引用節外か

小林(2005)では引用節外の方が「ないです」が使われやすいとされたのに対し、本調査では国会議事録とYahoo 知恵袋で引用節外の方が「ないです」の割合が高かったが、書籍は引用節内の方が「ないです」の割合が高いという結果になり、明確な差が現れなかった。

5. 「ないです」へのシフトと場面差の関係

本調査では前後の品詞・「では／のではないか」形以外では明確なシフト傾向は見られなかった。また、Yahoo 知恵袋では比較的日常生活と同様のシフト傾向が見られたのに対し

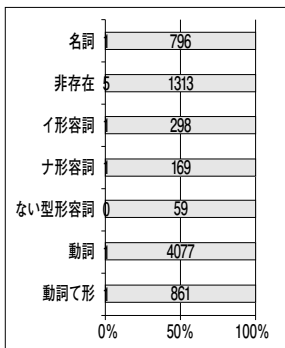
□ ないです / □ ません



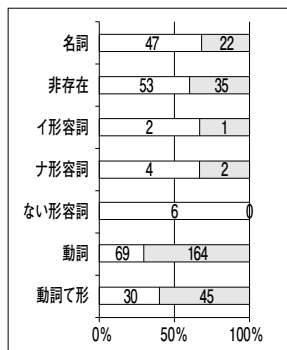
【図5】 議事録言い切り品詞別比率



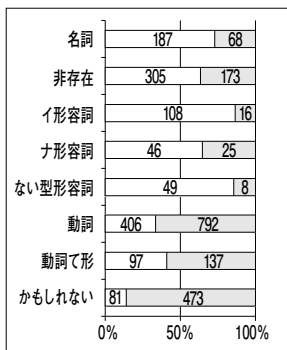
【図6】 Yahoo 言い切り品詞別比率



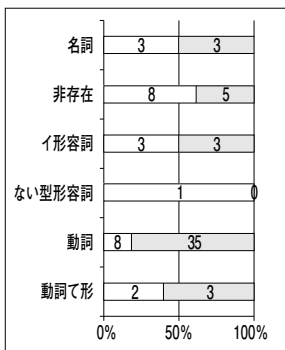
【図7】 書籍言い切り品詞別比率



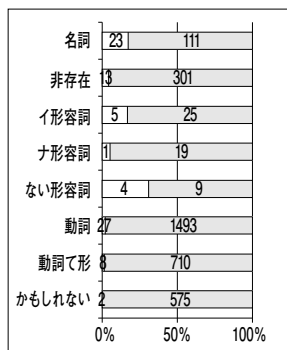
【図8】 議事録終助詞品詞別比率



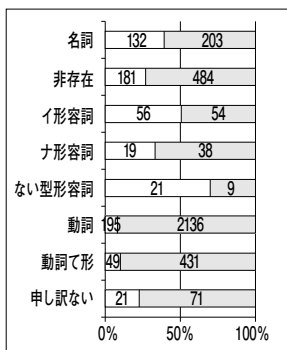
【図9】 Yahoo 終助詞品詞別比率



【図10】 書籍終助詞品詞別比率



【図11】 議事録接続助詞品詞別比率



【図12】 Yahoo 接続助詞品詞別比率



【図13】 書籍接続助詞品詞別比率

【表１】「では（じゃ） ないですか、ありませんか」の資料別総数と比率

		国会議事録	Yahoo 知恵袋	書籍
では（じゃ） ないですか	ないです	326 (68.2%)	642 (91.2%)	31 (29.2%)
	ません	152 (31.8%)	62 (8.8%)	75 (70.8%)
	計	478 (100%)	704 (100%)	106 (100%)
「のでは（のじゃ） ないですか	ないです	205 (79.5%)	411 (94.3%)	18 (81.8%)
	ません	53 (20.5%)	25 (5.7%)	4 (18.2%)
	計	258 (100%)	436 (100%)	22 (100%)

【表２】 じゃないですか意味別内訳

		確認、非難	驚き・発見	ようじゃないか
国会議事録	ないです	326 (68.8%)	0	0
	ません	148 (31.2%)	0	4
Yahoo 知恵袋	ないです	624 (91.4%)	0	0
	ません	59 (8.6%)	3	0
書籍	ないです	29 (46.0%)	2 (8.7%)	0
	ません	34 (54.0%)	23 (91.3%)	18

【表３】 国会議事録・動詞の種類別「ないです」「ません」の割合

		わかる	できる	可能形	動詞でいる	言う	行く	動詞全体
議事録	ないです	20(3.8%)	17(4.6%)	11(5.2%)	31(16.8%)	3(2.0%)	2(6.5%)	114(4.6%)
	ません	505(96.2%)	356(95.4%)	201(94.8%)	153(83.2%)	149(98.0%)	29(93.5%)	2691(95.4%)
Yahoo	ないです	94(3.7%)	99(3.0%)	141(6.4%)	211(9.1%)	42(9.1%)	5(3.2%)	1110(7.4%)
	ません	2445(96.3%)	3190(97.0%)	2057(93.6%)	2115(90.9%)	420(90.9%)	150(96.8%)	13841(92.6%)
書籍	ないです	1(0.4%)	0	2(0.3%)	5(0.7%)	1(0.4%)	2(2.8%)	14(0.3%)
	ません	246(99.6%)	880	659(99.7%)	731(99.3%)	263(99.6%)	70(97.2%)	4803(99.7%)

【表４】 国会議事録・引用節内と外の総数と比率

	引用節内			引用節外		
	ないです	ません	計	ないです	ません	計
議事録	28 (9.3%)	272 (95.7%)	300 (100%)	887 (11.2%)	7050 (88.8%)	7937 (100%)
Yahoo	34 (6.9%)	462 (93.1%)	496 (100%)	4995 (16.1%)	26080 (83.9%)	31075 (100%)
書籍	2 (9.1%)	20 (90.9%)	22 (100%)	119 (1.0%)	11749 (99.0%)	11868 (100%)

書籍では終助詞の付加以外に顕著なシフト要因がなく、調査対象によるシフト傾向の差が顕著だった。そこでシフトを促進する要因について個々の文法的特徴ではなく各媒体の違いに注目し、場面差という観点から再度分析した。

南(1963)は敬語の使用のされ方を規定する外的条件を人間関係の条件、ことがらに関する条件、状況に関する条件の三つがあるとし、更に状況に関する条件を①改まった場面か②1対1か1対多数か③直接か間接かに分け、場面の改まり度が高い方が、発話が多数に向けられている方が、直接より間接の方が丁寧な形式が使われるとしている。本節では上の3点に着目して、各媒体を場面差の観点から分析した。

5. 1. 1. 場面の改まり度

「ません」と「ないです」は、「ません」がより規範的な形として認識されており、改まった場面では「ません」が好んで使用されることが予想される。改まり度で各媒体を比較すると、Yahoo 知恵袋は利用者が自由に参加するインターネット上の掲示板で、改まり度は最も低い。書籍は個々の差はあるがYahoo 知恵袋と比較すると改まり度は高い。そこで国会議事録>書籍>Yahoo 知恵袋の順となると考えられるが、「ないです」へのシフト傾向と改まり度は一致せず、改まり度は直接シフトに関係する要因とは言えない。

5. 1. 2. 想定される受け手の人数

南(1963)に従えば、想定される受け手の人数が少ない程「ないです」が使われやすいと考えられる。調査対象を比較すると、書籍は時間の枠がなく特定の聞き手を想定していない点で最も多数に向けられている。Yahoo 知恵袋、国会答弁は形式的には1対1でも、常に潜在的な多数の聞き手が想定されるという点で共通しているが、その重要性では国会答弁の方が高く、受け手の数は書籍>国会議事録>Yahoo 知恵袋の順に多いと考えられる。この傾向は調査対象の「ません」から「ないです」へのシフト傾向と一致するため、想定される受け手の人数は「ないです」へのシフト要因となり得ると言える。

5. 1. 3. 直接的対話か間接的対話か

南(1963)によると、より直接的なやりとりの方が「ないです」が使われやすいと予想される。調査対象の中では国会答弁が唯一直接的対話で、Yahoo 知恵袋と書籍はどちらも間接的手段を介していることから直接性の高さは国会答弁>Yahoo 知恵袋=書籍と考えられるが、「ないです」へのシフト傾向と一致しないため、直接的場面であるかは「ないです」のシフト傾向を決定づける要素ではないと言える。

5. 2. 対話の双方向性

南(1963)の場面差の観点による分析からは、想定される受け手が多数よりも1である方が「ないです」が使われやすいこと以外明確なシフト要因はなかった。そこで、改めて場面

差を総合して考えた結果、対話に双方向性がある方が「ないです」へのシフトが進むと仮定し、最も「ないです」へのシフトが進んでいた Yahoo 知恵袋に高い双方向性を見いだせるのではないかと考えた。

その証拠と考えられるのが顔文字である。顔文字は文字だけでは表現できない感情を表す機能、聞き手や話者の体面を調整する機能があることがわかっている（高木（1993））。Yahoo 知恵袋で終助詞的に使われていた顔文字を意味別に分けると、以下のようになった。

【表 5】Yahoo 知恵袋での顔文字の意味別内訳

	ポジティブ	ネガティブ	中間	その他	合計
質問	13	59	11	11	94
回答	36	19	0	0	55

ネガティブな意味合いのものは、質問では自分の困難な状況や情報を必要としていることを強調し、受け手への謝意、申し訳なさを表すため、回答では回答者が質問者への共感を表すために使用されていた。ポジティブなものは回答で多く使われ、回答者が自身の経験を茶化したりすることで質問者を励ますために使用されていた。このような顔文字の使用から、Yahoo 知恵袋では質問・回答という言葉行動をする上で対人面での配慮が働いているのが見受けられ、対話に双方向性があると言える。

双方向性が高いと「ないです」が使われやすい理由は、双方向性が高い媒体では話し手と聞き手がお互いに補い合って対話が進むため不完全な形の発話となされることで、くだけた形である「ないです」が現れやすくなると考えられる。逆に双方向性が低い場合は内容を一度で伝えなければならず完全性の高い発話が要求されるため、より整った文にしようとする心理が働き、丁寧で規範的とされる形が好まれると考えられる。

6. まとめと今後の課題

本稿の調査によって、以下の点が明らかになった。

- (1) 書きことばと話ことばの中間的媒体では、「ません」から「ないです」へのシフトは日常会話と比較すると進みが遅い。
- (2) 前接する品詞が名詞、非存在、形容詞では「ないです」、動詞では「ません」が選択されやすく、また後接する品詞が言い切りの場合「ません」が使われやすく終助詞が後接する場合には「ないです」が使われやすい傾向は先行研究と同様だった。
- (3) 「ではないですか」「のではないですか」は、国会議事録と Yahoo 知恵袋では「ないです」へのシフトが進んでいるものの、書籍では未だに「ません」が優勢である。
- (4) Yahoo 知恵袋のような双方向性を有し相互交渉の必要な媒体では、今後話しことばにおいて「ません」から「ないです」へのシフトが進むのに従って同様のシフトが起きると予想されるが、書籍のように双方向性の低い媒体では今後も「ないです」へのシフ

トは起きにくいと考えられる。

本稿では、媒体の場面差から大枠のシフト要因について述べたのみで媒体毎の「ないです」と「ません」の使い分けを規定する条件については分析できなかった。また、場面差としての各媒体の違いという観点の中でも、規範意識の大きさと媒体との関係については調査できなかった。今後の課題として、文法的意味だけに留まらず語用論的観点も含めての考察が必要と考えられる。

注

- (1) 書籍の用例収集資料の採用は、まず日本十進分類法の分類番号で「9 文学」となっているものを全て除き、そこから題名、副題、書評からエッセイ、対談、講演集、インタビューと判断できるものを除いた。そして残ったものは、コーパスに収録されている原文を1つずつ確認して、地の文が「ですます調」のものを選別した。書籍の詳細な作品名は用例資料に記した。
- (2) 「ですか」「ですから」「でしょうか」「でしょうから」「ですね」のように「です」「でしょう」の後に終助詞や接続助詞が接続しているものは、後ろの助詞の機能が主要な機能になっていると判断し、それぞれ終助詞、接続助詞に分類した。
- (3) 動詞の用例の抽出は、前接する品詞による分類で動詞に分類したものの中から、手作業で行った。可能形の用例としては、五段動詞の可能形、一般動詞の「れる」形、「られる」形があった。

参考文献

- 上野智子他 (2005) 『ケーススタディ日本語のバラエティ』2005、桜楓社
- 伊藤雅光 (1993) 「「チャット」と呼ばれる“電子おしゃべり”について」『日本語学』12 (13)、p55-62
- 太田一郎 (2001) 「パソコン・メール・とケータイ・メール―「メールの型」からの分析―」『日本語学』20 (10)、p44-53
- 尾崎奈津 (2004) 「否定の丁寧形「ナイデス」と「マセン」について」『岡山大学言語学論叢』11、p29-42
- 川口良 (2006) 「母語話者の「規範のゆれ」が非母語話者の日本語能力に及ぼす影響―動詞否定丁寧形「書きません」と「(書か) ないです」の選択傾向を例として」『日本語教育』129、p11-20
- 川口良 (2010) 「「ません」形から「ないです」形へのシフトに関わる要因について―動詞否定丁寧形の言語変化という視点から」『日本語教育』144、p121-132
- 北原保雄 (1981) 『日本文法事典』1981、有精堂出版
- グループジャマシイ編著 (1998) 『日本語文型辞典：教師と学習者のための』1998、くろしお出版
- 小林ミナ (2005) 「日常会話に現れた「ません」と「ないです」」『日本語教育』125、p9-17
- 高崎みどり、立川和美 (2008) 『ここからはじまる文章・談話』2008、ひつじ書房
- 高本條治 (1993) 「パソコン通信におけるフェイスマークの機能」『日本語学』12 (13)、p63-74
- 田野村忠温 (1994) 「丁寧体の述語否定形の選択に関する計量的調査：「～ません」と「～ないです」(言語編)」『大阪外国語大学論集』11、p51-66
- 中丸茂 (2005) 「エモティコンの世界」『メディア』講座社会言語科学第4巻、p86-116
- 野田春美 (2004) 「否定ていねい形「ません」と「ないです」の使用に関わる要因―用例調査と若年層アンケート調査に基づいて」『計量国語学』24 (5)、p228-244
- 福島悦子・上原聡 (2004) 「「言いません」としかはくは言わないです―会話における丁寧体否定辞の二形式―」『言語学と日本語教育Ⅲ』くろしお出版、p269-286
- 畠弘巳 (1986) 「会議のプラグマティズム」『言語生活』415、p38-45
- 畠弘巳 (1983) 「場面とことば」『国語学』133、p55-68
- 南不二男 (1987) 『敬語』1987、岩波書店
- 宮地裕 (1963) 「話しことばと書きことば」『講座現代語第一巻』1963、明治書院